

本校の課題

- 全国学力・学習実態調査から一定の学力は定着しているが、やや二極化傾向が見られる。
- (1)各教科の状況
 - ・国語 国語科で身に付けた「書く力」が、他教科に生かされていない。
 - ・算数 自分の考えを数学的に表現する力が弱い。
- (2)質問調査
 - ・計画的に家庭学習に取り組んでいる児童の割合が低い。
 - ・学力向上につながる自己肯定感が低い。

課題解決に向けた取組

授業力向上	学習習慣の定着	その他
<ul style="list-style-type: none"> ○大阪教育大学大学院教授 木原俊行先生を招聘して、指導力向上・授業改善に取り組む。 ○立西版ルーブリックの作成 ○「授業の見せ合い・学び合い」を推進 ○若手教員のための一校目研修を実施 ○外国語活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○理科の学習補助を配置し、実験の安全強化とプリント作成等を行う。 ○きめ細かな学習支援の実施 ○「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の推進 ・自主学習コンテスト ○ぐんぐんのびる個別ドリルシステムの活用 ○読書力向上の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用した分かりやすい授業の実践 ○全教科にわたる言語活動の充実 ○朝のチャレンジタイムの活性化 ○校内スピーチフェスティバルの実施 ○さわやかボランティアの実施 ○「校長先生に挑戦」の問題掲示

本年度の具体的な目標

- 全国学力・学習状況調査
 - ・算数A「量と測定」領域の正答率73%以上
- 本校の生活点検
 - ・「宿題の提出率」92%以上
 - ・「計画を立てて家庭学習をする」62%以上
- 本校の国語科アンケート
 - ・「めあてをもって学習に取り組む」80%以上
 - ・「学習したことを振り返る」70%以上
- 学習のめあて時間
 - ・低学年30分以上
 - ・中学年45分以上
 - ・高学年60分以上

小中連携

- 校種間での授業参観、授業力向上に向けての研修
 - ・(4年目教員異校種交流等)
 - ・教科の交流、授業研究を通じた連携
 - ・小小連携
- 入学前テストの検証を踏まえた小中における授業の改善
- 夏季合同研修会の実施 (4校の校長によるワークショップ型研修等)
- 小中で一貫した凡事徹底の習慣化 生徒指導のルールの共通理解
- 行事の交流
 - ・あいあいコンサート
 - ・クラブ見学・体験
 - ・生徒会による学校説明会

具体的な取組内容

- 言語活動の充実
 - 校内研究を通じた指導力向上及び授業改善 (大阪教育大学大学院 木原俊行教授による指導助言)
- 情報モラル教育・メディアリテラシー教育の推進 (鳥取県情報教育サポーター 今度珠美氏)
- 5・6年の理科の同室複数指導、プリント作成と採点支援
- 放課後学習 3・4年
- 夏季休業期間の集中チャレンジ学習 3・4年
- 学習の手引きを作成
- ぐんぐんのびる個別ドリルシステムの活用
- 図書ボランティアによる読書指導(読み聞かせ等)
- 5・6年の英語の同室複数指導

家庭や地域との連携

- 学校ホームページ等による情報公開
 - ・学校教育プランの明示
 - ・学力向上アクションプランの明示
 - ・学力調査結果の報告と考察の公開
 - ・学校評価結果の公開
- 家庭学習の手引き、ノートの活用、生活点検による学習習慣の定着 →校内掲示板にて公開
- 家読(家庭での読書)の推進
- 北図書館との連携
- 地域コーディネータを中心としたボランティアグループとの連携

